

平成 27 年度 2 学期終業式 式辞

今年は朝の講堂礼拝に、坂村真民さんの詩を紹介してきましたね。

「タンポポ魂」から始まりました。

「二度とない人生だから」は日々の糧 13 日朝にある ”二度と通れぬ今日というこの道”と同じ観点に立つことを話しましたね。「一本の道」「かなしみはいつも」は、人間としての私の生きる力を綴った詩でした。また、「本気」「本腰」では、そろそろ本気になる、本腰を入れるように呼びかけをしました。そしてそのタイミングは「今」という詩に示されておりました。『かつてでもなく、これからでもない。大切なのは一呼吸の今だぞ・・・』と。

「必然」という詩がありました。仏教的には何ごとにも必ずその原因があり、結果として生起（現象や事件があらわれること、おこること）するととらえられます。まるで棚からボタ餅のように、努力もしないでラッキーな結果が転がり込んでくることを期待するような偶然に望みをつないでいる姿勢を戒めてくださいました。

「こちらから」は 7 月 18 日の 1 学期終業式で取り上げましたね。『挨拶を始め、すべてこちらから行動すれば・・・』は、私たち相愛生の心得にあたると思っておりますよ。

今日の終業式には「生きることとは」を紹介しましょう。この詩は同窓会報に寄せる私の一文にもとりあげておりますので、また会報にて活字になったものをお読みください。

生きることとは 坂村真民

生きることとは
愛することだ
妻子を愛し
はらからを愛し
おのれの敵である者をも
愛することだ

生きることとは
生きとし生けるものを
いつくしむことだ
野の鳥にも草木にも

愛の^{まこと}眼を
そそぐことだ

生きることとは
人間の美しさを
失わぬことだ
どんなに苦しい目にあっても
あたたかい愛の涙の
持ち主であることだ

ああ
生きることとは
愛のまことを
貫くことだ

真民さんは「生きること」を「愛すること、いつくしむこと、人間の美しさを失わぬこと、愛のまことを貫くこと」と言い換えられておられます。私は「生きること」を「いのちを大切にすること」と考えて生きております

仏教的には「いのち」を私の所有物とはとらえません。仏さまから私が今、お預かりしているものと考えます。この「いのち」の磨き方は人それぞれで違いますが、この「いのち」を勝手にすり減らしたり、なくしたりしてはいけません。そうでしょ。預かりものを粗末に扱いますか？「いのちを大切にすること」は、預かりものだから大事に扱い自分流に磨きをかけましょう・・・ということです。

今年一年を振り返る時期になりました。今年はしっかり磨けたかな？来年はもっと丁寧に磨く心構えをしようとか、それぞれに見直しておきましょう。ケガや事故のないよう、新年には元気な笑顔で始業式でお会いしましょう。よいお年を!!

2015（平成27）年 12月19日 相愛中学・高等学校
学校長 安井 大悟